

ネパール外国人技能実習生制度視察旅行

2019年11月29日から12月5日の日程で全協ビル管理連合協同組合では、外国人技能実習生の日本国受け入れ監理団体として来年度より活動すべくネパール国カトマンズに山田理事長をはじめ5名の組合員と山田理事長の友人であるネパール人のラズさんが通訳兼ガイドとして同行し、視察旅行を実施致しました。

ネパール国は親日国家であり、ネパールの人たちは日本人と同じく八百万神を信仰する大変信仰心の厚い民族で道徳心をわきまえ大変働き者の人たちであり、直近の統計では日本に約86,000人の人たちが来日されております。その証拠に刑法犯以上の発生率は在日外国人トップ3の中国、韓国、ベトナム人と比較すると著しく低く、また不法滞在者の数も同様に低い統計数値が出ております。2019年4月1日より外国人技能実習生制度の拡大が行われ、国家間協定先の国としてネパール国も指定され、業種としてビルクリーニング・フードサービスが対象となりました。日本の労働人口の低下による人手不足は、私たちの業界においても大きな問題であり、特に清掃業務や警備業務といったジャンルにおいては絶対数不足をしており、その解決策として外国人の登用は避けられないのが現状であります。現に近年においては警備業務の交通誘導においての外国人の登用する企業も出てきております。

山田理事長がネパール国とつながりがあることから第一弾は、組合の受け入れ相手国としてネパールを指定する予定ですが、外国人技能実習生としてネパール国を受け入れ相手としている監理団体はまだまだ少ないのが現状であります。

今回のネパール国の視察にあたり、ネパール国労働省事務次官Binod KC氏との面談や現地送り出し機関、日本語学校の面談視察などを行い、大変有意義な時間を過ごすことができました。

残念ながら、ネパール大地震の際に義援金寄付でお会いした前在日ネパール大使であるマダン氏はオーストラリアへ旅行中とのことで再会することは出来ませんが現在、ネパール国家公務員の労働組合連合会のトップであるラズさんの叔父が心配して同席して戴きました。

